

一 湘南教組ニュース

No.1238
2018. 2. 27

全国教研 in 静岡

第67次教育研究全国集会在2月2日～4日の3日間、静岡県で開催されました。雪の心配がされていましたが、小雨がぱらつく程度で、穏やかな天候が3日間続きました。

集会には、全国から延べ1万人を超える参加者があり、湘南教組からは正会員を含めた25名が参加しました。24分科会に全国から646本のレポートが集まり、熱い論議が繰り広げられました。

初日の記念講演には国際ジャーナリストの堤未果さんが、「報道されない（株）アメリカの教育事情～子どもたちの未来を守れ～」という演題で話があり、子どもたちの未来を守るために、私たちが今後気をつけなければいけない視点について理解を深めました。

特別分科会では、「子どもの学びと社会のあり方を考えるシンポジウム」として2部構成で行われました。第1部では「災害と子どもたち」と題し、2016年の熊本地震で被災した阿蘇西小養護教員穴井さんがシンポジストとして話されました。損壊した校舎から以前閉校した別校舎へ移り、一から通学路を計画するなど一週間程で新設校を開校するような状態であったこと。道路が壊れて渋滞するので、通常より早く出勤せざるを得なくなり、体調を崩す職員がでたこと。災害を経験した子どもたちが、栄養の偏りや外遊びの制限で体重が増加したり、心理的なショックで視力が下がったりしたこと。怖い夢を見たり家族と離れられなくなったりして保健室登校が増え、一見明るそうな子どもたちが実は不安でいっぱいであったことなど、被災時における教職員の動きや子どもの様子について聞くことができました。また、第2部では「いま子どもたちに必要なこと」というテーマで教職員や保護者の方がシンポジストとなり、普段接している子どもの姿から話が展開されました。ソーシャルワーカーの方が「一人も排除されない社会をつくるには誰しもが持っている悲しさや孤独感を想像し、まずはその子のそばにただでいい」という話をされ、会場中に共感の輪が広がっていました。



それぞれの分科会では「目の前の子どもたちのために何ができるのか」という思いを土台にし、悩んでいることや苦労したこと、工夫したことなどの発表があり、活発な議論が行われました。また、各地域での子どもの教育環境や教職員の労働環境・組織の様子についての情報も知ることができ、充実した三日間となりました。

参加者一人ひとりが感じたことを各地域で広げ、その一つひとつを積み重ねることが第67次のテーマ「平和を守り、真実をつらぬく民主教育の確立」につながっていく、と改めて気付かされた教育研究集会でした。

2018 ★スキー・スノボ★ツア IN富士てん



1月20日(土)に日帰りのスキースノボツアーを開催しました。今年もたくさんの組合員と楽しい時間を過ごすことができました。

早朝、小雨からのスタートでしたがバスに乗り込み、高速を走ること数時間で目的地「富士てんスキー場」に到着しました。

スキー場に到着すると、空が晴れ、雪化粧をした富士山が私たちを迎えてくれました。予定より

早く着き、多くの時間をグレンデでスキー・スノボを満喫してもらうことができました。滑走終了後は、バスで旅館に向かい、雪山で冷えた体をお風呂で温めました。富士山を見ながらの露天風呂は、参加者同士の会話をさらに弾ませました。

この企画は、学校、市町の枠を越えた組合員、あるいは職場の仲間との交流を深めることを目的として行っています。同じ思いで働く者同士、つながるところはたくさんあると思います。またどこかでつながりを作る機会になってもらえると嬉しく感じますし、仲間と楽しい気分で1日を過ごしていただけたら幸いです。人との絆は、人生の宝物です。忙しい毎日ではありますが、今回このツアーで同じ時間を過ごした縁を大事にしてもらえればと思います。ご参加ありがとうございました。来年度の企画に、乞うご期待！

横浜ナイトクルーズ *Christmas special*

♪～マリーナルージュで愛されて～大黒ふ頭で虹をみて～シーガーティアンで酔わされて～まだ離れたくない～
♪でお馴染みの横浜マリーナルージュにて、2017年12月16日(土)「横浜ナイトクルーズ」が開催されました！横浜みなとみらいの夜景を見ながら美味しいお酒と料理を堪能しながら、男女20名が素敵な時間を過ごしました！2時間の短い時間の中で、参加者一人ひとりが全員とお話して、親交を深めました！ただ！前回の第一回開催は40名の参加！しかし今回は20名、、時期が悪かったのでしょうか？と言っても素敵な企画なので、第三回はみなさんもぜひ！ぜひ！ご参加してください！リーズナブルな参加費でナイトクルーズ！しかも素敵な出会いができるのです！「秘密のデート」ではないですが、ちょっと大人の「COOLなデート」次回も乞うご期待！！



Nice meeting in Yokohama...

気になる話題のニュースを
サクサク読める！

湘南ピース通信 2018

DID YOU
KNOW?

連載第3回 共謀罪はダメ！絶対！③

今回は「テロ関係に対応する法律がたくさんある！」と前回の連載で言ったので、そのところをちょっと詳しく解説していきたいと思います！日本の刑法では、**内乱予備陰謀罪、外患に関する予備陰謀罪、私戦予備陰謀罪、殺人予備罪、強盗予備罪、放火予備罪、身代金目的誘拐予備罪、凶器準備集合罪**などがすでに定められており、新たな立法をしなくても、**予備・陰謀段階からの規制が可能**となっています。また、テロ対策を含む特別法規について、**爆発物取締罰則、化学兵器、サリン、航空機の強取、銃砲刀剣類所持等取締法**など、**未遂以前の共謀や予備の段階からの処罰が可能**となっています。さらに、いわゆるテロ資金提供処罰法が制定され、公衆等脅迫目的の犯罪行為を実行しようとする者が武器を購入するために資金を集めたり、そのような者を援助する目的で資金を提供したりする行為だけでなく、公衆等脅迫目的の犯罪行為の実行を容易にする目的で「土地・建物・物品・役務」を提供した場合も処罰の対象とされています。処罰対象者は、公衆等脅迫目的の犯罪行為を実行しようとする者に直接利益を提供する協力者だけでなく、**そのような者を間接的に支援する協力者も含まれます。核物質によるテロ犯罪について予備段階から処罰可能とする法律も制定されています。**2017年1月27日に書き換えられましたが、それまで外務省のHPでは、「**国連その他の国際機関では、これまでに13本のテロ防止関連諸条約が作成され、(中略)我が国は、2015年8月現在、下記の13条約の締結を完了しました。**」と記載され、日本はテロ対策の国際条約を全て締結し、対応していると説明していました。

県PTA協議会湘南ブロック懇話会

2月8日(木)、県PTA協議会湘南ブロック主催、湘南教組共催で、鎌倉市深沢学習センターにて、教職員と保護者の懇話会を開催しました。

前段、天利智子さん(藤沢市立白浜養護学校前校長)から「困り感をかかえる子どもたちへの支援」について話をうかがいました。「子どもたちは、『障害』のあるなしにかかわらず、何らかの『困り感』をもって学校生活を過ごしているのではないのでしょうか。『何度言ってもわからない子』ではなく、『何か困難な状況があるかもしれない』と考えてみませんか。周りの視点の転換は、子どもに寄り添うために大切なことです。」と提起がありました。冰山モデルや具体的事例を交えながら、パニックを起こすなど実際に目に見えることだけに対応するのではなく、相手の言っていることが解らないなどその行動の背景をさぐり解決していくことが大切であると、子どもに寄り添うヒントを学びました。

話を聞いた後、保護者と教職員が5~6名のグループとなり、子どもの特性に合わせた支援や学校・家庭でできる支援の方法について、意見交換を行いました。

子どもを取り巻く環境が複雑化する中で、引き続きこうした機会を通して、保護者、教職員の連携を大切にしていきたいと思います。



臨任・非常勤教職員 学習会・交流会

2017年11月29日(水)、臨任・非常勤教職員 学習会・交流会を行いました。当日の参加者からは、採用試験の内容が今後変わっていくことへの懸念、臨任で働いている内容と採用試験で受ける教科が違うための不安、空白期間中に勤務や部活指導、異動準備などをするための不満、部活動で夏季職専免もとれない現状、雇用の不安定さなどが話題にあがりました。また、雇用期間によって変わる年休の仕組みについて確認しました。

採用試験、部活動、空白期間など、臨任・非常勤教職員の抱える様々な課題を再認識しました。今回の話し合われた内容は、各市町教委や神教組に意見反映していきたいと思えます。



「働き方改革」職場集会

アンケート結果

2017年11月に中教審「学校における働き方改革に係る緊急提言」に対する統一職場集会を各分会にて行いました。アンケートの結果をみると、緊急提言の施策の中で、希望の多いものは、「学校閉庁時間の設定」、「長期休業中の学校閉庁日の設定」、「サポートスタッフ・部活動指導員の増員」でした。また、「働き方改革の実現・長時間労働の是正に向け、湘南教組・神教組に望むこと」という項目には、教職員定数の拡充(正規、専科(特に外国語))、一学級の人数縮減(30人、35人学級)、出張・研修の精選などに多くの意見があげられていました。

湘南教組は、引き続き、学校現場の声を日教組、神教組に意見反映するとともに、教職員定数の改善や教育予算の拡充にもとりくんでいきます。

長時間労働解消におけ管理職と学習会を開催

2月5日、藤沢地域において、管理職組合と湘南教組の合同学習会を行いました。日本女子体育大学教授の青木純一さんを講師に招き、「学校における働き方改革とこれからの課題」について講演を受けました。教員の長時間労働をめぐる情勢、「献身的教員像」の転換、適切な勤務時間管理などについて、学習を深めました。

文科省の調査によると、教員の時間外労働は、1966年度は約8時間だったものが、2016年度には小学校約65時間、中学校71時間に増加しています。

私たちの給料月額4%の「教職調整額」は、この50年前の時間外労働がもとになっています。

文科省が「学校における働き方改革に関する緊急対策」を公表し、教職員の長時間労働が課題になって

いる現在、課題解決のためには、管理職、教職員が立場は違えども同じ方向で、とりくみをすすめていくことが必要です。

文科省(文部省)調査の変化

時間外労働時間(1ヶ月)

1966(昭和41)年度

約8時間

(平日・休日)

2006(平成18)年度

小/約51時間、中/約60時間

(平日)

2016(平成28)年度

小/約65時間、中/約71時間

(平日)

全県新たな組織誕生

かながわ教職員組合連合！！！！

2017年12月13日、横浜市戸塚公会堂において神教組第93回臨時大会が開催されました。300人を超える代議員が参加する中、「かながわ教職員組合連合」の役割や運動方針について討論が行われました。

政令指定都市への給与費等の移譲をふまえ、賃金等における県域、政令指定都市教組の体制確立・強化の観点から現行の組織形態を見直し、新たな全県組織の設立に向けて、大きく一歩をふみ出すことができました。

引き続き、7地区教組がそれぞれ主体性を維持しつつ、神奈川の教育課題について連携を取る必要性を確認しました。



執行部のつぶやき

私は、なんでここに座っているのだろうか？定年退職まで片手でたりてしまう歳になった。初任の中学校は、湘南教組ではなくS教組でした。それぞれの学年が10クラスで教職員が50名ほどいましたが、その中で未組は1人でした。有無もなく、組合員となりました。

わけもわからず、横須賀にデモに行き、その後先輩先生と飲み。教研の日は、朝から遠い海沿いの学校へ授業を見に行き、話し合いに参加。テスト前や秋から冬の部活の無いときには、勤務時間通りに退勤。毎月の給料も毎年毎年増えていき、3月の差額もほぼ1か月分の給料が出ていました。でも、その頃、民間で働いていた友人は、年収で私の1.5倍ももらっていましたが。

でも、いつの頃からか、給料は頭打ち、そして下がり、残業時間も増加し、何かと仕事が増え、説明責任、テストの採点も自宅ではなく学校でするようになり、駐車場代を払うようになり、放課後、生徒と補習する時間が減り、部活指導が終わってすぐに退勤することができなくなり、。。。。。

でも、組合がなかったら、もっとひどかっただろうな。組合費を毎月きちんと払い、年に数回動員に行く組合員でしたが、執行部で活動する機会があり、組合の必要性は身に染みしました。

これから先は、定年が65歳、年金支給70歳、ロボット先生、。。。どうなるかわかりませんが、人を育てる仕事は、人にしかできないのではないのでしょうか。その人が元気に働くために、多くの仲間と知恵を出して、組合活動をしなくてははいけません。団結ガンバロウ、湘南教組。

